

平成28年度 天理小学校運営計画			評価 A:きちんとできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:全くできていない 評価欄の基準は、A+Bが95以上→A 70以下→C	
重点目標		目標達成の方策	評価	成果と課題
信条教育	将来立派なよふぼくになるための基本的な素養を身につけさせる	1 「めざす教職員像」を意識しながらいつその成人を目指して自らの信仰を深める。	B	教職員自身はそれぞれによく自覚していることである。「めざす教職員像」をふまえてさらなる成人を目指したい。できるだけ、職員月次祭まなびなどの機会をとらえ、具体的な信仰実践を報告したり語り合いたい。また、一人ひとりが教会参拝や行事への参加を積極的に行っていくよう啓発をしていく。
		2 教祖130年祭に向けにおいかけ・おたすけに努めることで、その信仰姿勢を児童に映すよう心がける。	B	ほとんどの教職員が、自らの信仰姿勢を児童に映すよう努力している。日頃から謙虚な気持ちで信仰実践を継続しなければならぬ。1と同様に「めざす教職員像」の具体的な実践に今後も励みたい。また、「大きな声を出しておつとめができる」「校舎内だけでなく、どこでも人に元氣な挨拶ができる」等の具体的な声かけを呼びかけていきたい。
		3 信条の授業充実を目指し、「信条教育主題」に添って計画的に授業を行う。	C	信条の授業に関しては、年度初めの計画通りに実施できていない教員もいるが、どの教員も様々な工夫をこらして授業を行っている。6年前に作成した『信条授業案集』を始め、それ以外の教材も使用して、更なる信条の充実を図っていきたい。また、教員自身が教会に足を運び勇んだり、会長の話を聞いたりして信仰心をふかめていく。信条教育主題を月ごとに教員全員で確認することも行う。また、信条の授業が定期的実施できるよう、実施日や実施週を決めて行うようにする。
		4 朝の学校参拝を児童と共に心を込めてつとめることで、勇んで一日の学校生活を送るようになる。	A	ほぼ達成できている。児童・教員が一体となって学校参拝に臨んでいることは明らかではあるが、情性に流れないよう気をつけたい。
児童育成・生活指導	生きるための力を高めさせる	5 水泳、持久走や縄跳び、さらに運動会をはじめ様々な学校行事を通して、体と心を鍛えさせる。	A	これについてもねらい通り達成できている。学校行事などを通して、常に心身を鍛えており、その成果はだれもが得心できるほどである。さらに、新しい分野での取り組みを考えたい。
	生活のきまりを徹底させる	6 きちんとした挨拶ができるよう常に指導を心掛ける。とりわけ来校者への挨拶を徹底させる。	C	外部からの来校者や学校生活を離れたところでの挨拶が行き届いていないようである。日常生活の中で常に意識ができ、習慣化できるよう働きかけたい。機会あるごとに指導する必要がある。また、挨拶できた子を褒め続ける。また、教職員自身が挨拶の意識を高め、子どもの手本となるよう常に心掛ける。
		7 「学校のきまり」を繰り返して確認することでルールを守ることの大切さを理解させる。	B	何か問題が生じた時に改めて「学校のきまり」を確認することになる。全校朝会や集会など、全員が集まる機会を利用して、可能な限り、平素からルールを確かめることのできるよう心掛けたい。
		8 校内での規律正しい生活に加え、公共の場での立ち居ふるまいについても重視して指導する。	B	校外における指導についてはその機会が少ないことから徹底できていないところもある。校内での振る舞いが、全ての場面で発揮できるよう指導に努めたい。校内での規律については取り組んでいるが、公共の場での活動の体験は多くはないので「重視して」という所までは至っていない。
	ものを大切にさせる	9 学用品をはじめ給食についても感謝の心をもって粗末にしないよう指導をする。	B	学用品等の身の回りの品物については質素であることを旨としている。給食についてはクラスにばらつきはあるものの、時折、残飯が残ることもある。指導の仕方如何で残飯は減らすことができるので、今後も課題として取り組んでいきたい。また、教職員自身も物に対する感謝の意識を高める。ことある毎に児童には指導を徹底していく。
	相手の立場を認め励まし合い助け合う温かな学校づくりを目指す	10 児童のお互いがしっかり励まし合い、助け合うことによって徳分を磨かせる。そのことを通して学校に温かな雰囲気をつくる。	B	教職員の視点ではほぼ達成できているとなっているが、保護者からすれば今以上の成果を望まれている。学校生活のあらゆる場面で「たすけあい」を旨として信条教育を行っているが、さらなる実践を継続したい。学習面においても、サポートを合う場面を多くつくりあげていきたい。助け合いの精神を子ども達にどう説くのか、まだまだ課題である。今後も実践も深めていきたい。
	問題行動の未然防止と速やかな対応を行う	11 子どもの問題行動を未然に防ぐため、小さなサインを見逃さず速やかに対処する。そのために教育相談・いじめ・不登校対策委員会をしっかりと機能させる。	B	定期的なチェックカードだけではなく、平素から児童の言動を注意深く観察することで小さなサインに気づくことができる。可能な限り、対症療法ではなく、問題行動の予防に力を注ぎたい。教育相談・いじめ不登校対策委員会は、月に一度の定期的な集まり以外に、早期解決が必要な場合には、早急に開くようにしている。ここ数年、経験の浅い、若い教員が増えていく中、いじめ問題だけではなく、様々なトラブルの対応の仕方を学ぶ場が必要にもなっている。児童や保護者に対して、教育相談を定期的に、場所を決めて行うようにした。各教員が、授業や生活の中で多くの子と話す機会を持ちたい。
いじめ問題への対応をきちんとする	12 いじめの原因、背景、具体的な指導のあり方などについて、さまざまな場で教職員の共通理解を図る。	B		
児童の安全対策と交通安全指導を徹底する	13 危機管理マニュアルを念頭において、児童の危機回避知識を養うとともに、具体的な行動ができるよう日常的に指導する。	B	24年度は非常に評価の低い項目であった。25年度は、それを受けて毎月一つずつ危機管理上必要な事例を職員会議で提案し、その対策について具体的に周知徹底するようになってきた。いつ何時災害が発生しても対応ができるよう、今後も問題発生の際に迅速な対応ができるように研鑽を積み重ねていきたい。	
学習指導	基礎・基本を確実に習得させる	14 授業の取り組みを中心にして、基礎・基本を確実に習得できるよう指導に力を注ぐ。	B	教育課程の変更で、天小タイムの枠組みを外したが、授業等の時間の中で何とか実行できている。学力考査の結果では、評定の1・2が減少しており、偏差値平均がここ数年下降気味だったが、上昇に転じた。落ち着いた学習態度で臨んでいるのが要因だと思われる。
	個に応じた指導を行う	15 児童の実態に添って、教材や指導法に工夫を凝らし、合わせて個々の学習状態に応じて学力の伸長を図る。	B	児童の実態を、具体的な資料を基にきちんと把握する必要がある。労力を要することではあるが、これがなければ具体的な指導法につながらない。幅広い研修を重ねることで、有効な指導法の活用につなげたい。
		16 家庭とも連携を深めながら自ら学習出来るよう導く。	B	家庭との連携にはばらつきがあるように思われる。宿題の分量にしても、保護者の反応が「多すぎる」「少なすぎる」と大きく分かれることがある。一律にはいかず、個別の対応が迫られる場合もあると思われるが、できるだけ家庭と連絡を取り理解を得ていきたい。家庭、専門機関と連絡を取り合う。
研修	研修体制を充実させ、児童の学力向上を目指すとともに、児童の健全な育成を図る	17 研究テーマに添って、教員一人ひとりが研究授業・自己評価を行い、個々の授業力向上に努める。	B	ほぼ達成できている。年間の研修計画に基づき、かなり中身の濃い研修を重ねている。全教員が研究授業を行い、事後の話し合いも行っている。今後もしっかりと継続していきたい。また、研究テーマをシンプルにすることで、目標の明確化を図りたい。
		18 特別支援教育や不登校に関する学習会（事例検討会）や講演会を計画的に実施し、児童一人ひとりの理解に努める。	B	今年度より特別支援教育部を校務分掌に位置づけ、学校全体で取り組むシステムを構築して実践してきた。支援教室を3つにし、専科教員が各教室に入り込む授業形態も実施してきた。また、各自がスキルアップを図るための外部講師を招聘した研修等を行い、今後も一人ひとりの力量を上げることができる研修を実施していきたい。
連携	保護者の信頼や期待に応える	19 保護者の要望や意見などに対して、電話・手紙のやりとりだけではなく、家庭訪問などよりきめ細かな対応を心がけ、保護者との信頼関係を築く。	B	授業参観後に行われる学級育友会や家庭訪問、個人懇談などを通じて、保護者の意見・要望を出してもらっている。また、保護者アンケートも行い、その結果に対して、学校としてできるかぎり丁寧かつ迅速に対応していきたい。